

海外実習：国際保健実習（2014 年 12 月 23 日-29 日）

山本秀樹

平成 26 年度、南アジアのバングラデシュ国を対象とした海外実習を企画し、5 名の学生が参加した。バングラデシュ国は、従来最貧国といわれてきたが、近年経済発展も著しく、社会的起業(entrepreneurship)や BOP ビジネスのメッカと言われている。

バングラデシュでは NGO の果たす役割は大きく、同国の NGO である BRAC は国際下痢研究所 (ICDDR, B) や海外（欧米）の学術機関と連携して UNICEF の元事務局長(1980-98 年)の名前を冠した公衆衛生大学院 (James P. Grant School of Public Health) を 2004 年に設立して高い評価を受けている。

本実習において NGO が特異とする地域に密着した教育や保健医療活動 (PHC) の現場を体験する場を設けた。

帰国後、参加学生 5 名が教職員・学生を対象とした公開報告会を 2015 年 2 月 3 日に実施した。受講生以外の学生や教員らも 15 名程参加し活発な討論が行われた。

今後、バングラデシュにおける実習が本研究科の国際的な教育研修の場（フィールド）として成熟すること、ICDDR, B や BRAC 大学との協力関係の発展に繋がることを願う。



写真：マイクロ・クレジット受講者対象の母子保健事業